

ITASIA

International Master's/Doctoral Degree Program:
Information, Technology, and Society in Asia
Graduate School of Interdisciplinary Information Studies, The University of Tokyo

ITASIA

2010年度学術俯瞰講義(冬)「社会学ワンダーランド」

常識を抉る手法としての比較： 現代中国を眺めながら

園田 茂人(情報学環&東洋文化研究所)



†:このマークが付してある著作物は、第三者が有する著作物ですので、同著作物の再使用、同著作物の二次的著作物の創作等については、著作権者より直接使用許諾を得る必要があります。

ブレインストーミング

あなたは、高学歴者／有名大学の卒業生は高い収入に値すると思うか？その理由とともに、みずからの考えを述べなさい。

授業の構成

1. 有名大学進学への渴望：東アジアの夢？

2. そもそもなぜ大学へ行くのか？：その背後にある力学

3. 学歴社会の日中比較：その異同を考える

4. なぜ中国では教育による収入格差が是認されるのか？

5. まとめ

1. 有名大学進学への渴望： 東アジアの夢？

日本の事例

合格者インタビュー | 河合塾 | 合格実績 | 東京大学受験や医学部受験・京大・早大慶ブ JP

http://prep.kawai-juku.ac.jp/jisseki/interview.html

ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

お気に入り | Yahoo!メール | Yahoo! JAPAN | おすすめサイト | Web スライス ギャラリー | ヘルプ | YouTube - YMCA

合格者インタビュー | 河合塾 | 合格実績 | 東京大学...

- 大学受験科案内 (高卒生対象)
- 高校グリーンコース案内 (高校生対象)
- 講習案内 (高校生・高卒生対象)
- 公開単科ゼミ案内 (高3生・高卒生対象)

お申し込みはこちら

- インターネット申込
- 資料請求

合格者インタビュー 2010

志望大学合格を手にした河合塾の先輩たち。これから受験する後輩のキミにぜひ伝えたいこと、河合塾で得たものや、合格した今だから話せることなどを熱く語ってくれました。

予備校のイメージが180度変わりました
Media Player 500K

自分で考え、自分を信じる
Media Player 500K

大学受験科
合格 東京大学 理科三類

高校グリーンコース
合格 東京大学 理科三類

切磋琢磨で来る 河合塾は

http://www3.stream.co.jp/www11/kawaijuku/meta/100330/4_tsubu

インターネット 100%

スタート | Y... | 原... | 全... | 文... | 学... | IT... | 新... | 岩... | 合... | 21:47

† 河合塾HP

<http://prep.kawai-juku.ac.jp/jisseki/goukakusya.php?open=>
<http://prep.kawai-juku.ac.jp/jisseki/interview.html>

台湾の事例

印刷 (Alt+R)

上榜學校	系所	組別	姓名	錄取別	原學校科系
國立台灣大學	財務金融所	甲組	蔡欣樺	正取	政大財政
國立台灣大學	財務金融所	丙組	賴逸桓	正取	政大經濟
國立台灣大學	財務金融所	丙組	張旅揚	初試	政大風保
國立台灣大學	財務金融所	丙組	劉致宏	初試	政大經濟
國立台灣大學	商學研究所	甲組	林星苒	正取	台北金融
國立台灣大學	商學研究所	甲組	劉致宏	正取	政大經濟
國立台灣大學	商學研究所	甲組	鄭智元	正取	政大經濟
國立台灣大學	商學研究所	甲組	蔡亞婷	初試	台北經濟
國立台灣大學	商學研究所	甲組	蔡欣樺	初試	政大財政
國立台灣大學	商學研究所	甲組	陳韋丞	初試	政大財管
國立台灣大學	商學研究所	乙組	林芳源	探花	政大經濟

ページが表示されました

インターネット 100%

スタート 附 21:55

中国の事例

著作権の都合により、
ここに挿入されていた画像を削除しました。

http://news.xinhuanet.com/school/2010-11/04/c_12739202.htm

2. そもそもなぜ大学へ行くのか？： その背後にある力学

図1 教育の機能とは何か？ (2006年アジアバロメーター)

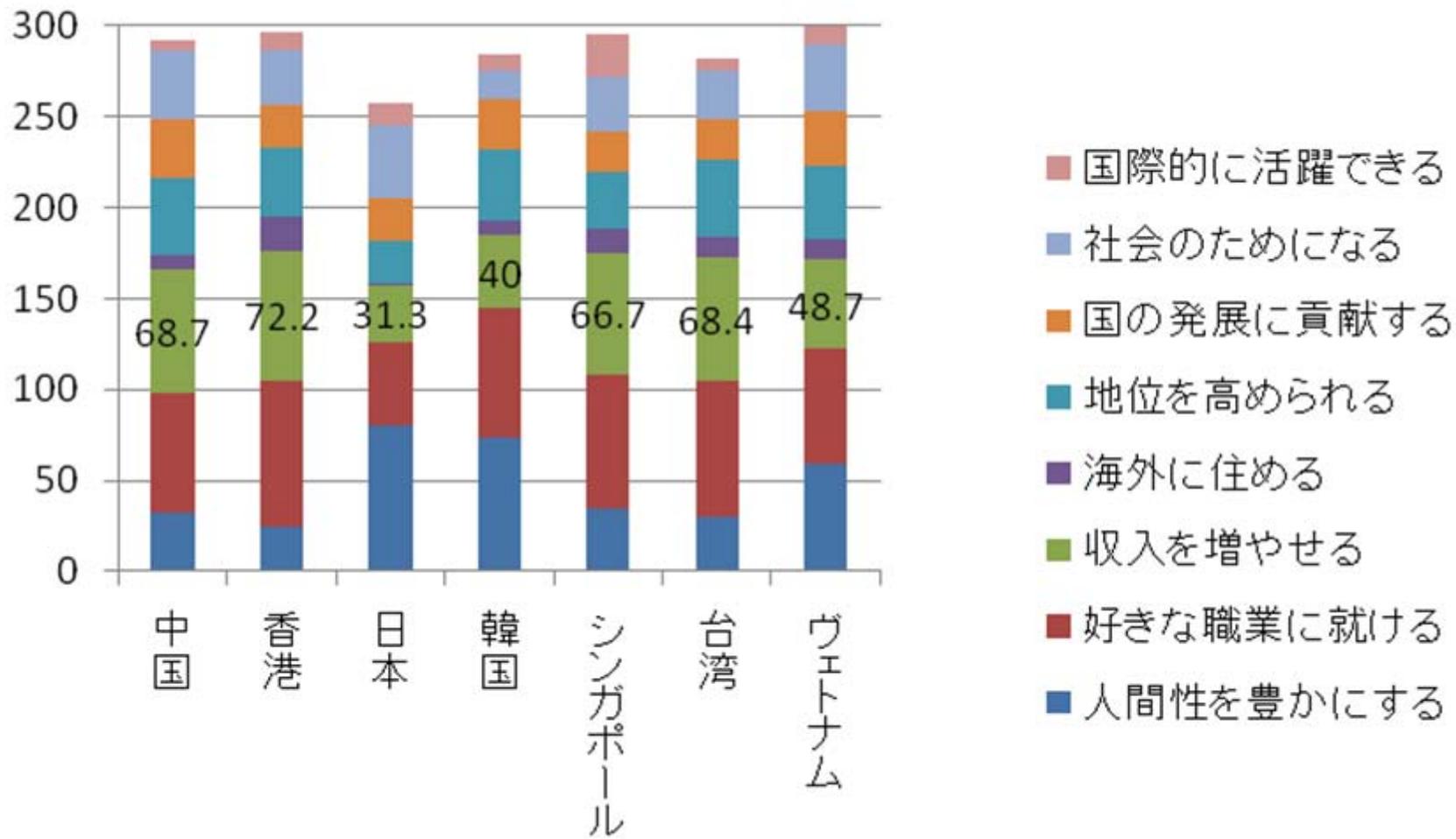
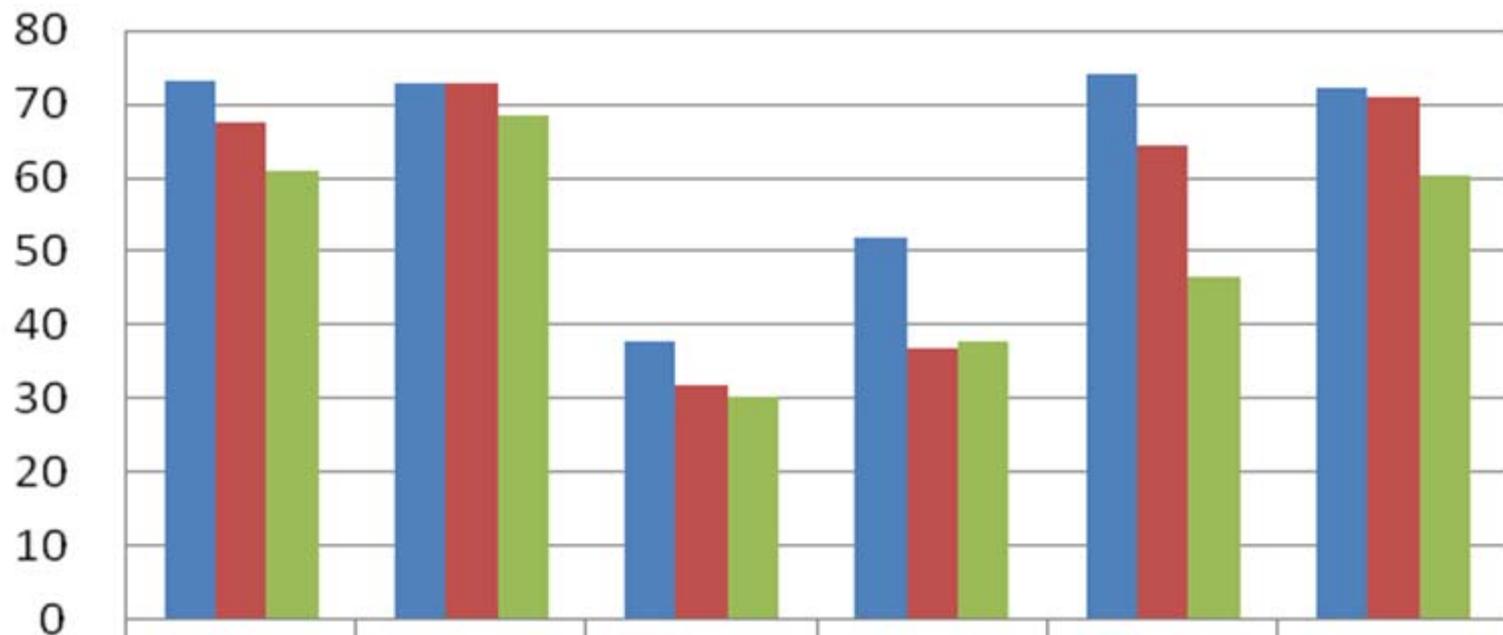


図2 高収入獲得手段としての教育：学歴達成別 (2006年アジアバロメーター)



	中国	香港	日本	韓国	シンガポール	台湾
■ 低学歴	73.1	72.9	37.8	51.8	74.0	72.3
■ 中学歴	67.6	72.8	31.7	36.7	64.3	70.9
■ 高学歴	61.1	68.6	30.2	37.8	46.6	60.5

3. 学歴社会の日中比較： その異同を考える

図3 日中の学歴別収入格差 (四都市調査、SSM調査)

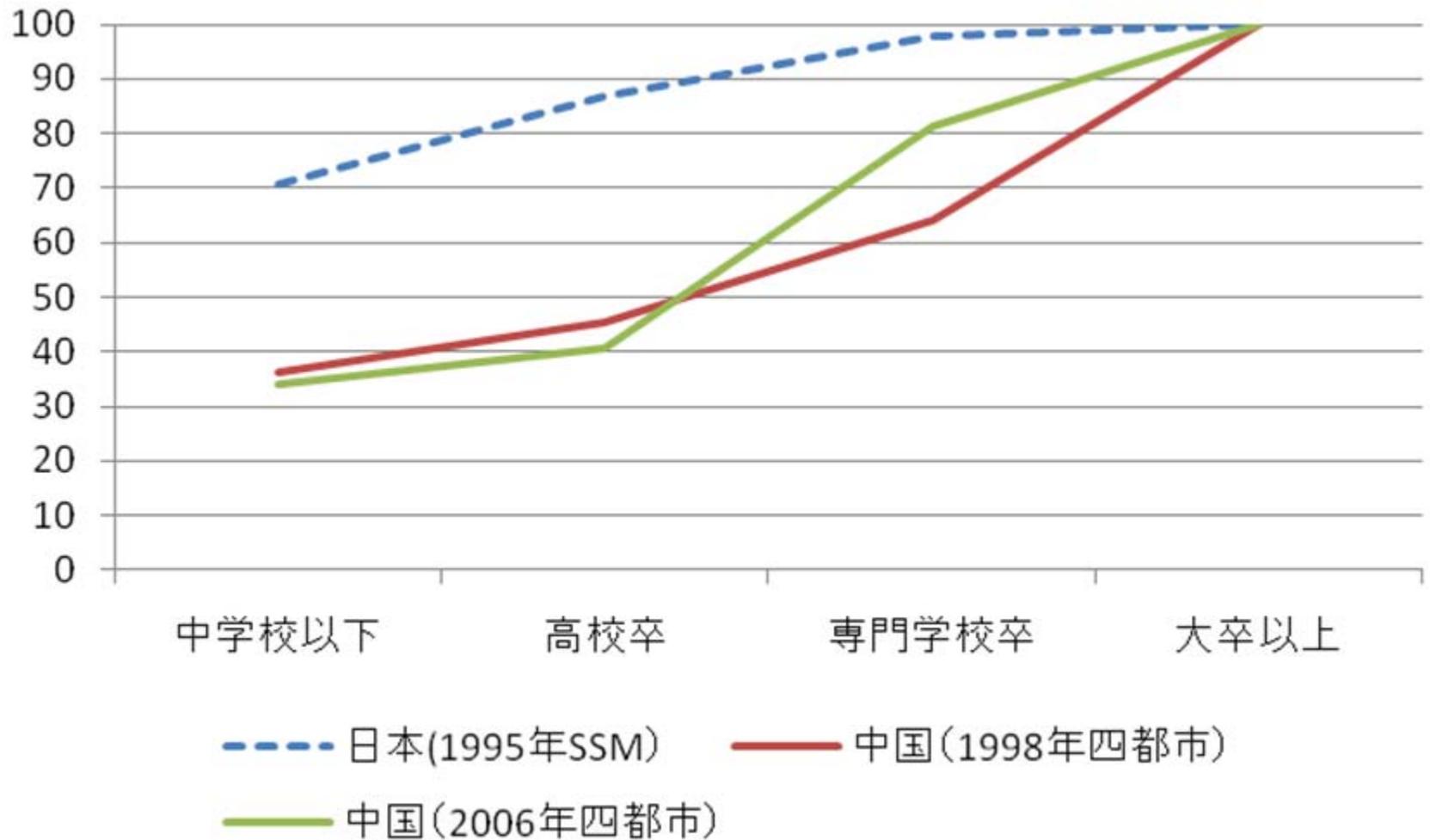


表1 日本における収入決定：2005年 (SSM調査)

	非標準 化係数		標準化 係数	t	有意確率
	B	標準誤差	$\hat{\beta}$		
(定数)	3.14	0.09		35.14	0.00
学歴	0.23	0.02	0.14	10.21	0.00
性別	-0.95	0.03	-0.42	-32.97	0.00
年齢	0.07	0.01	0.08	5.66	0.00

† 園田茂人 『不平等国家 中国：自己否定した社会主義のゆくえ』 中公新書(2008) P66、表2-3(2)

表2 中国における収入決定：2006年 (四都市調査)

	非標準 化係数		標準化 係数	t	有意確率
	B	標準誤差	ベータ		
(定数)	1.29	0.14		8.99	0.00
学歴	0.53	0.02	0.38	21.44	0.00
性別	-0.18	0.04	-0.08	-4.47	0.00
年齢	0.12	0.03	0.07	4.03	0.00

† 園田茂人 『不平等国家 中国：自己否定した社会主義のゆくえ』 中公新書(2008) P66、表2-3(1)

図4 社会的に不公平への意識：日中比較 (中国四都市調査、SSM調査)

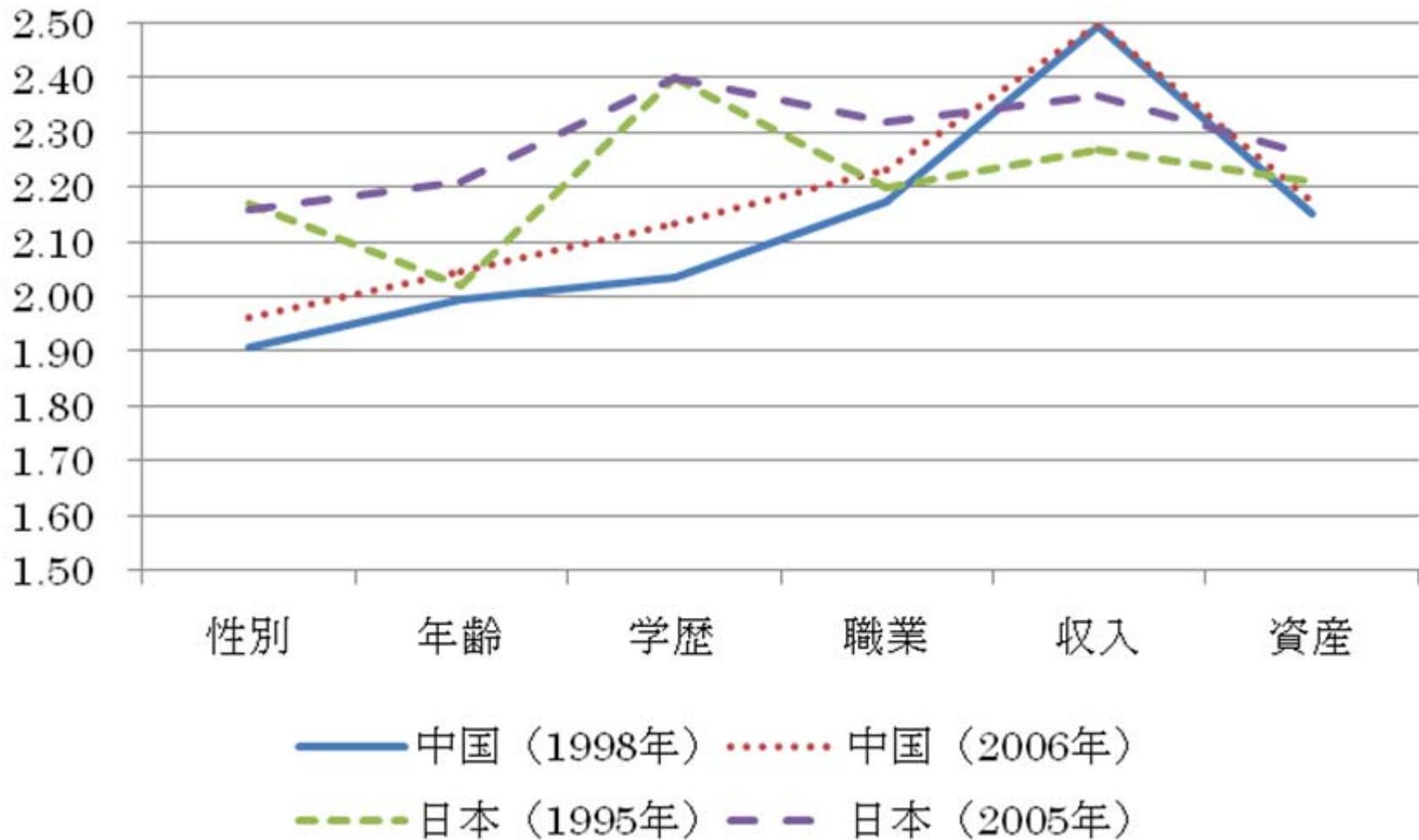
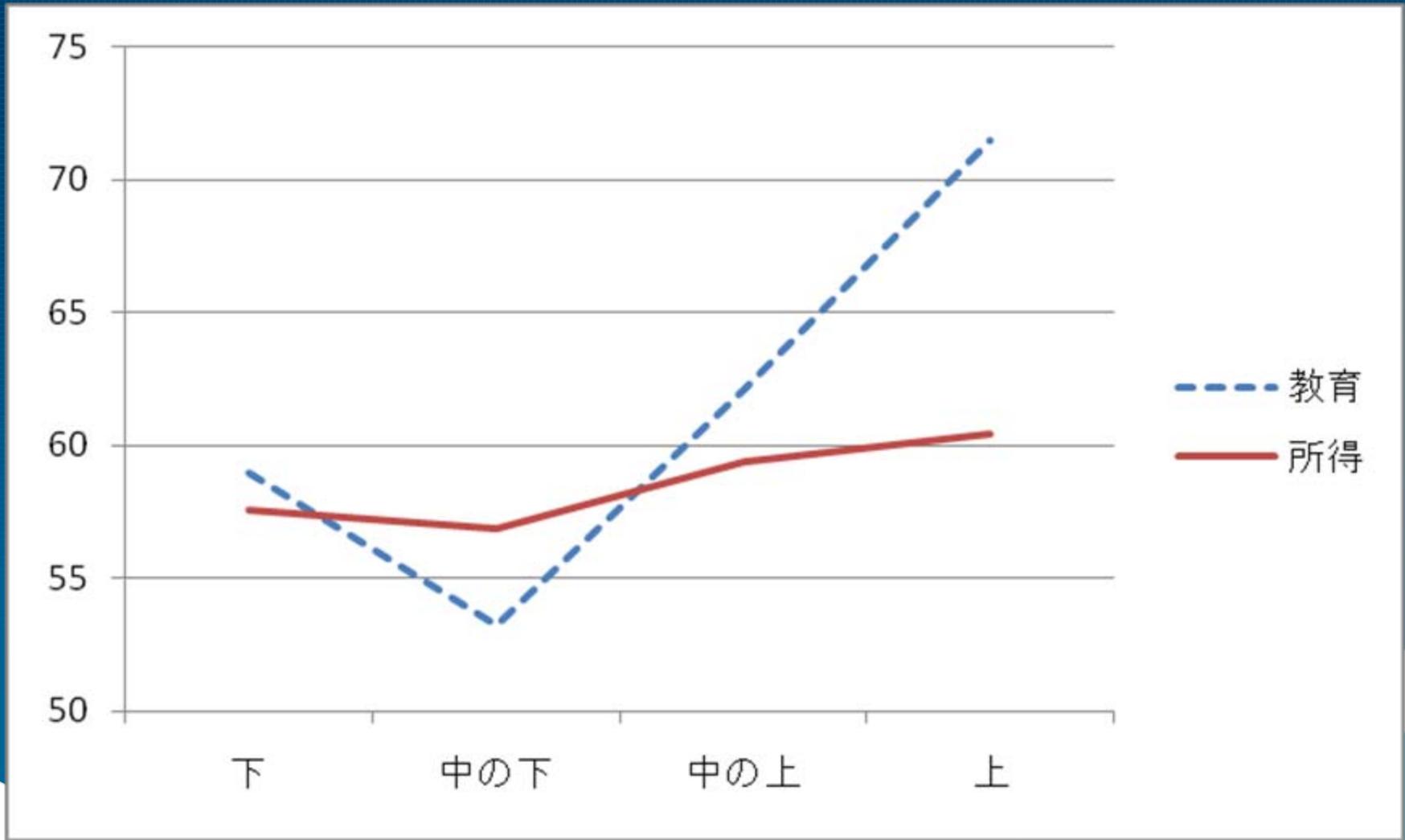
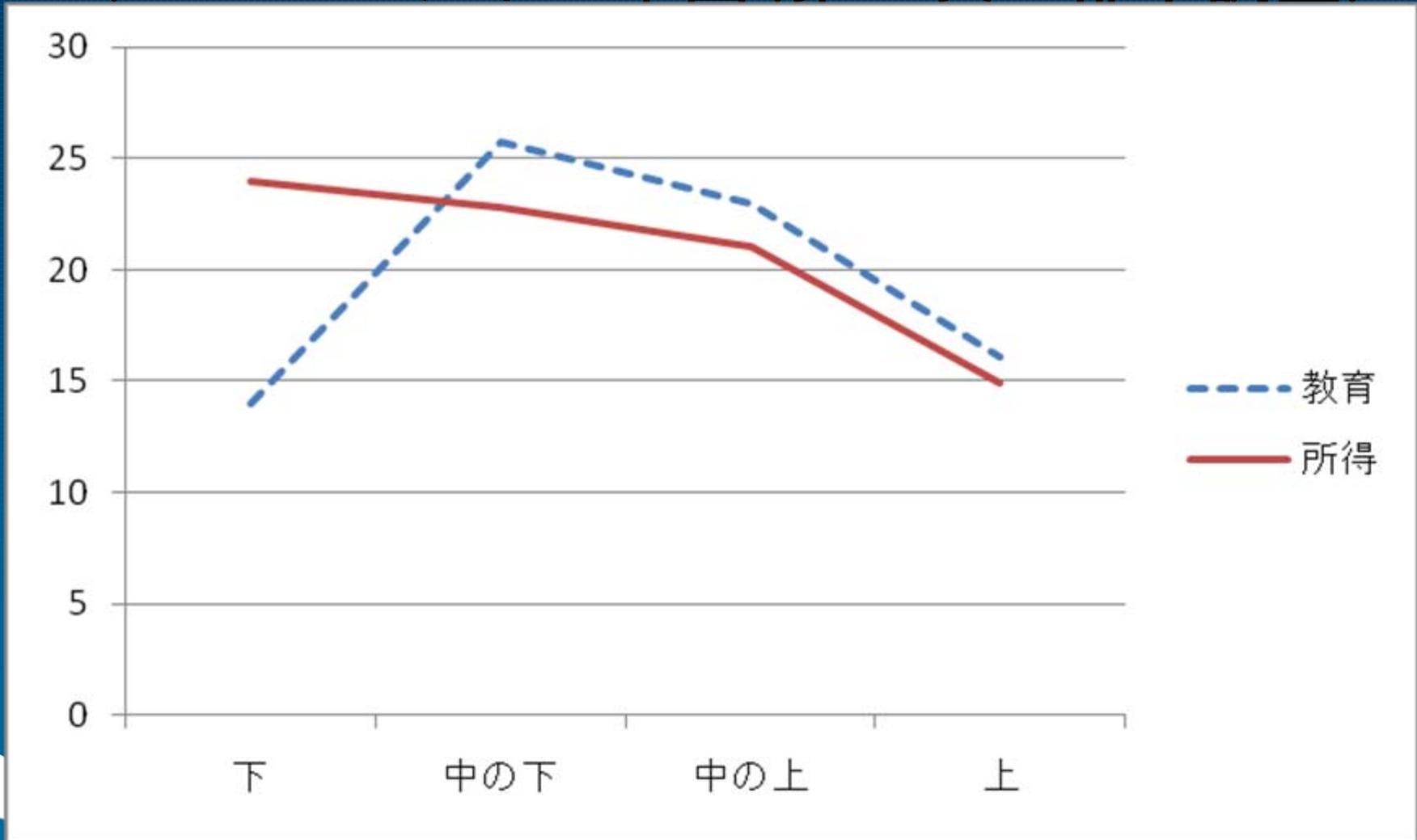


図5 教育・所得階層別に見た子弟への教育 アスピレーション: 日本(95年SSM調査)



注) 教育の場合、大卒以上、専門学校卒、高校卒、中卒以下の4つのカテゴリー別に、所得の場合、4分割した中でのランク別に、それぞれが「子どもにはできるだけ高い教育を受けさせるのがよい」とする文言に「そう思う」「ややそう思う」と回答した%の平均値を示している。(2010:89)

図6 教育・所得階層別に見た子弟への教育 アスピレーション：中国（第一次四都市調査）



注) 教育の場合、大卒以上、専門学校卒、高校卒、中卒以下の4つのカテゴリー別に、所得の場合、4分割した中でのランク別に、それぞれが「あまったお金があった場合に何にお金を使いたいか」とする文言に「子女の教育」と回答した%の平均値を示している。(2010:90)

図7 都市農村別にみた学歴構成：中国 (2006年アジアバロメーター)

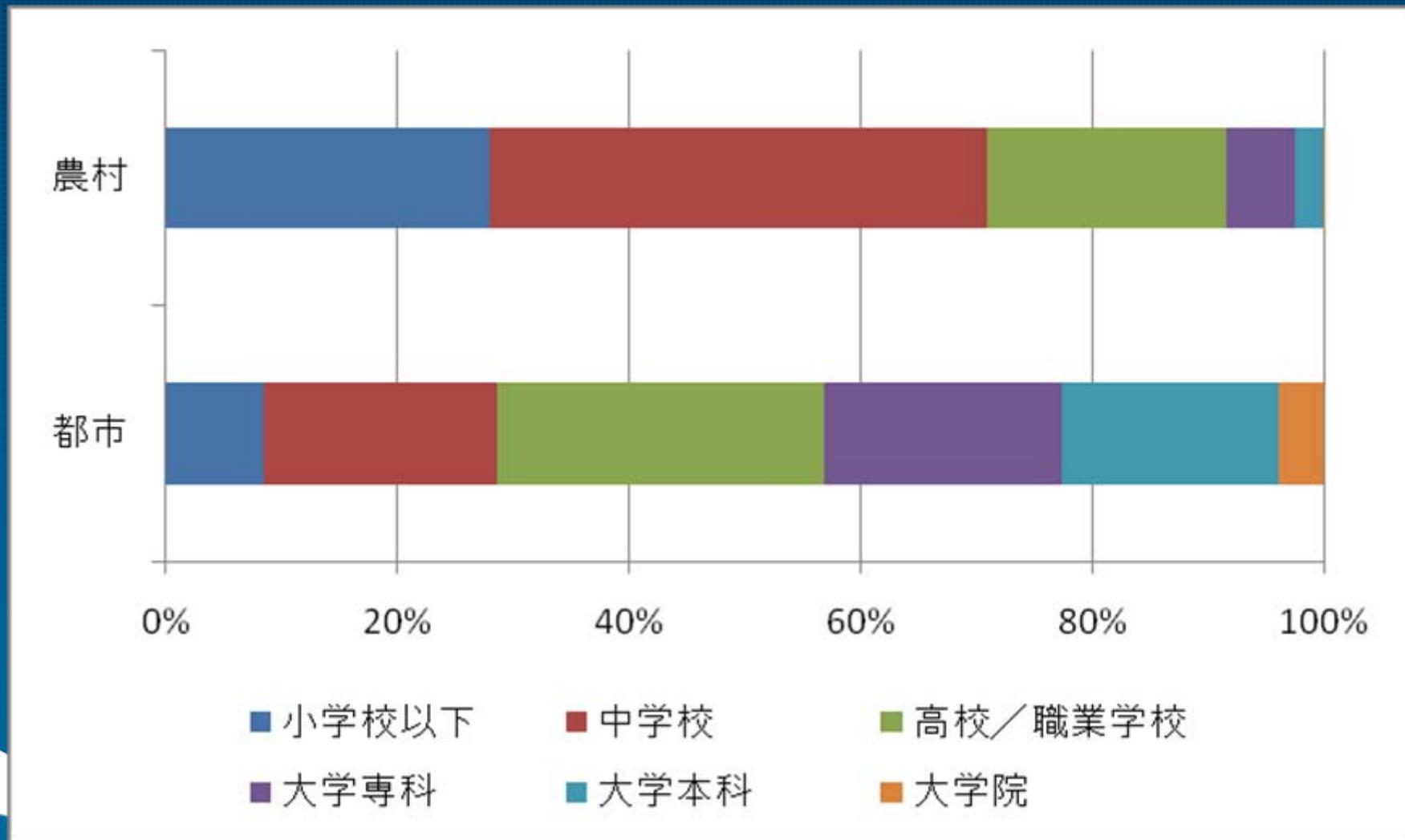
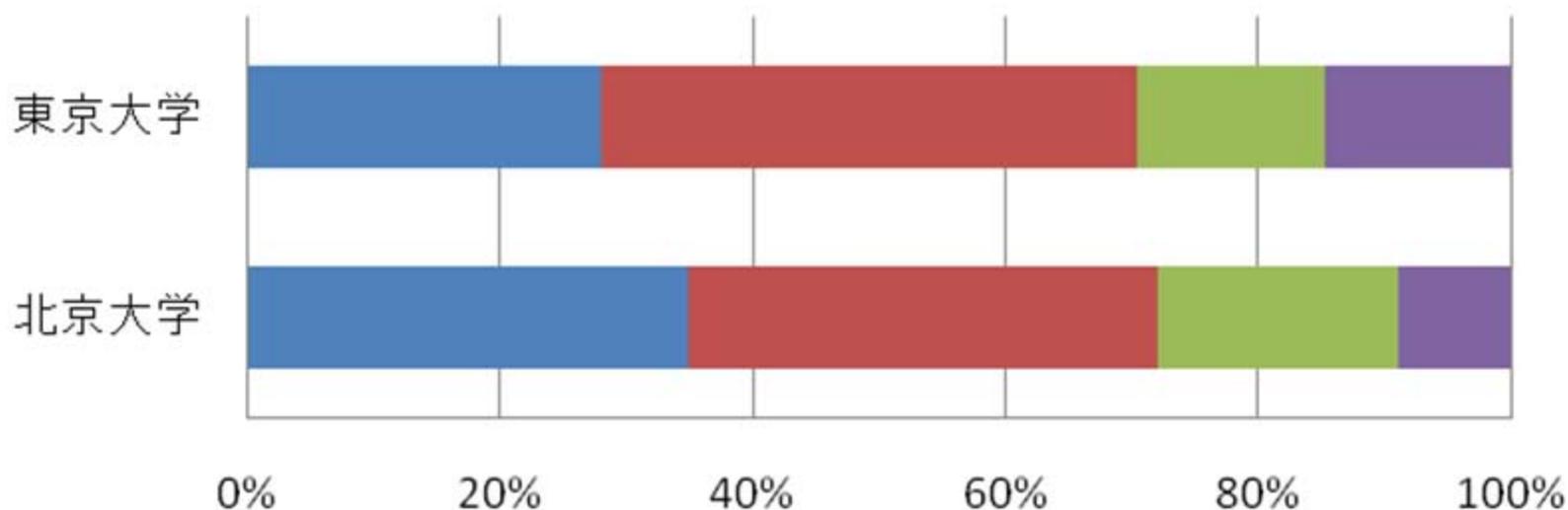
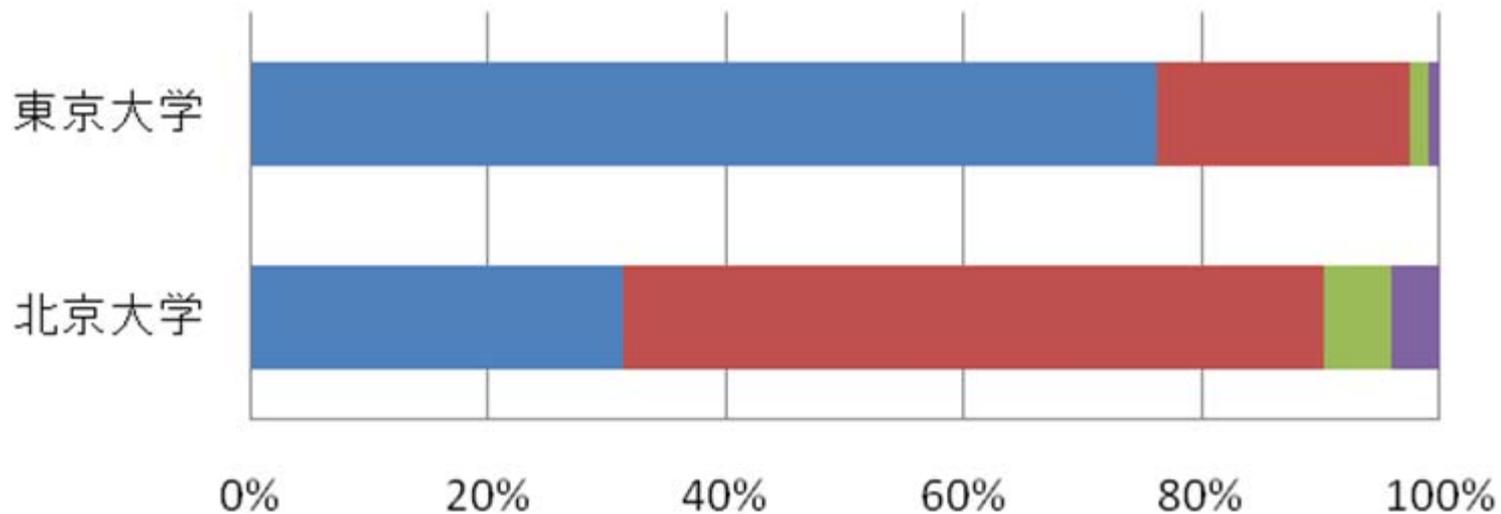


図8 エリート学生の留学への関心度 (2008年アジア学生調査)



	北京大学	東京大学
■ 大変関心あり	35.00%	28.04%
■ まあ関心あり	37.00%	42.33%
■ あまり関心なし	19.00%	14.81%
■ 関心なし	9.00%	14.81%

図9 エリート学生の留学後の行動 (2008年アジア学生調査)



	北京大学	東京大学
■ すぐに帰国	31.25%	76.27%
■ 数年たって帰国	59.09%	21.19%
■ 10年以上たって帰国	5.68%	1.69%
■ ずっとそこに移住	3.98%	0.85%

4. なぜ中国では教育による収入格差が是認されるのか？

(1) 歴史的要因

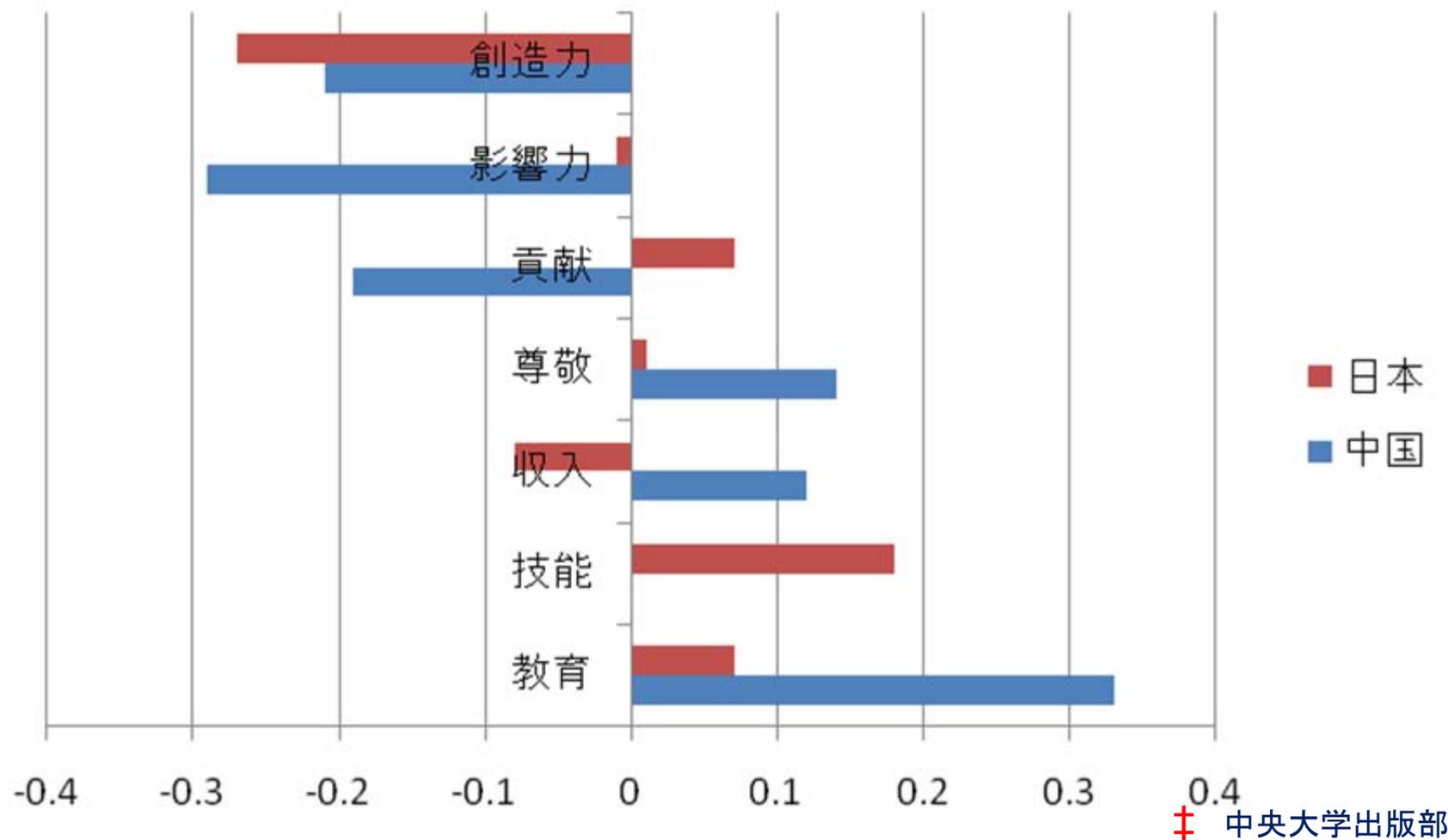
- * 「科挙」制度の伝統：その断絶と継続
 - ：ハイリスク・ハイリターンな「チャイナ・ドリーム」
 - ：平等な競争という「神話」
 - ：教育を通じた地位達成という「文化の型」

(図10)

- * 文化大革命による高等教育の破壊と強烈な教育熱の発生(図11)

- * 「逆差別」への反発ゆえの「過剰競争社会」の誕生：自己否定する社会主義

図10 職業評価の際に重要な基準：日中比較 (単位：ポイント)

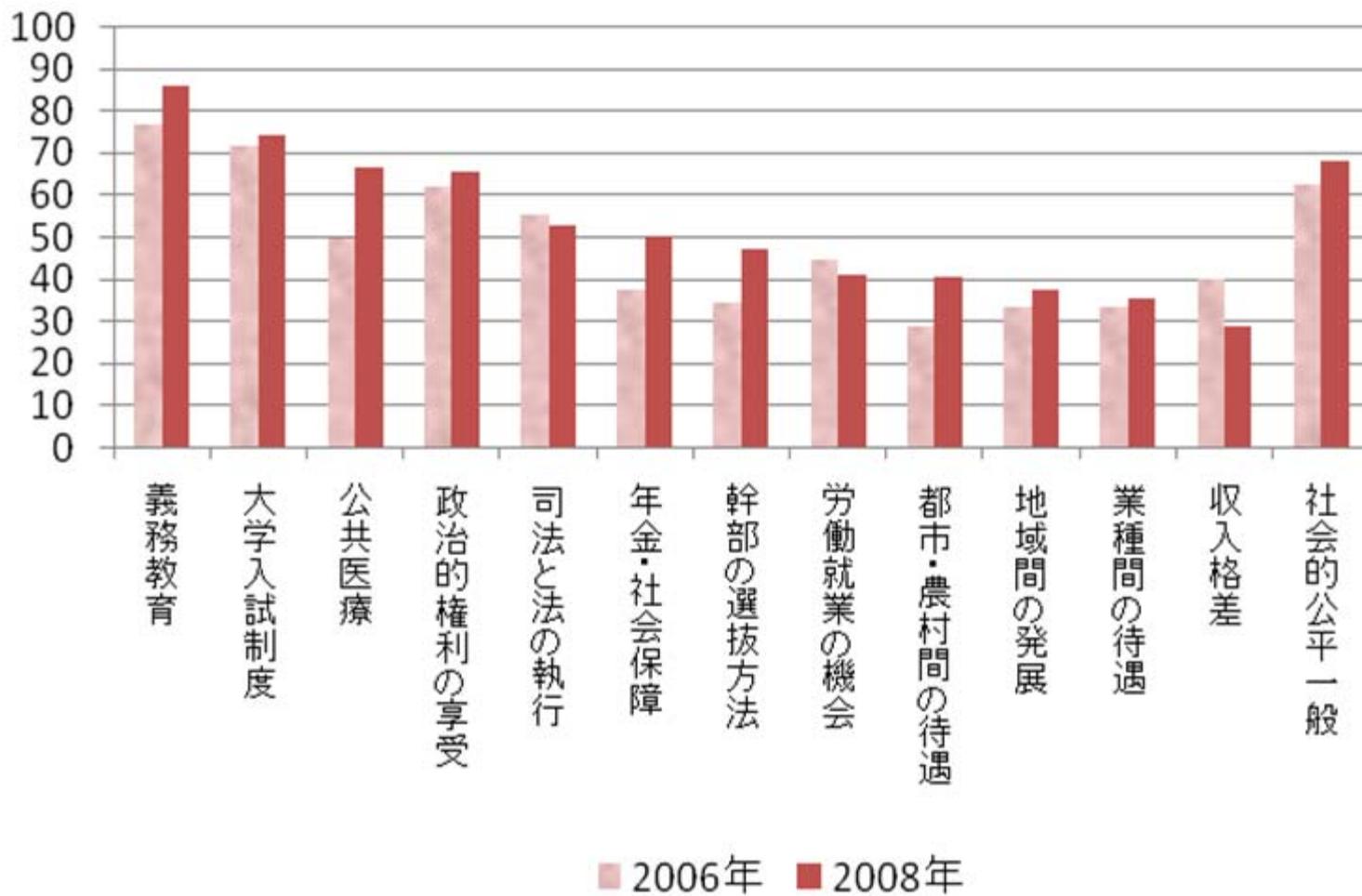


注) 日本のデータは1995年のSSM調査、中国のデータは1993年におけるハルピン調査の結果による。

(2) 制度的要因

- *社会主義体制から市場経済体制へ：多くの制度運営に潜む「不公平」
- *公的教育に対する高い評価と求められる「無謬性」(図12)

図12 都市住民の社会的公平に対する意識 (単位:%)



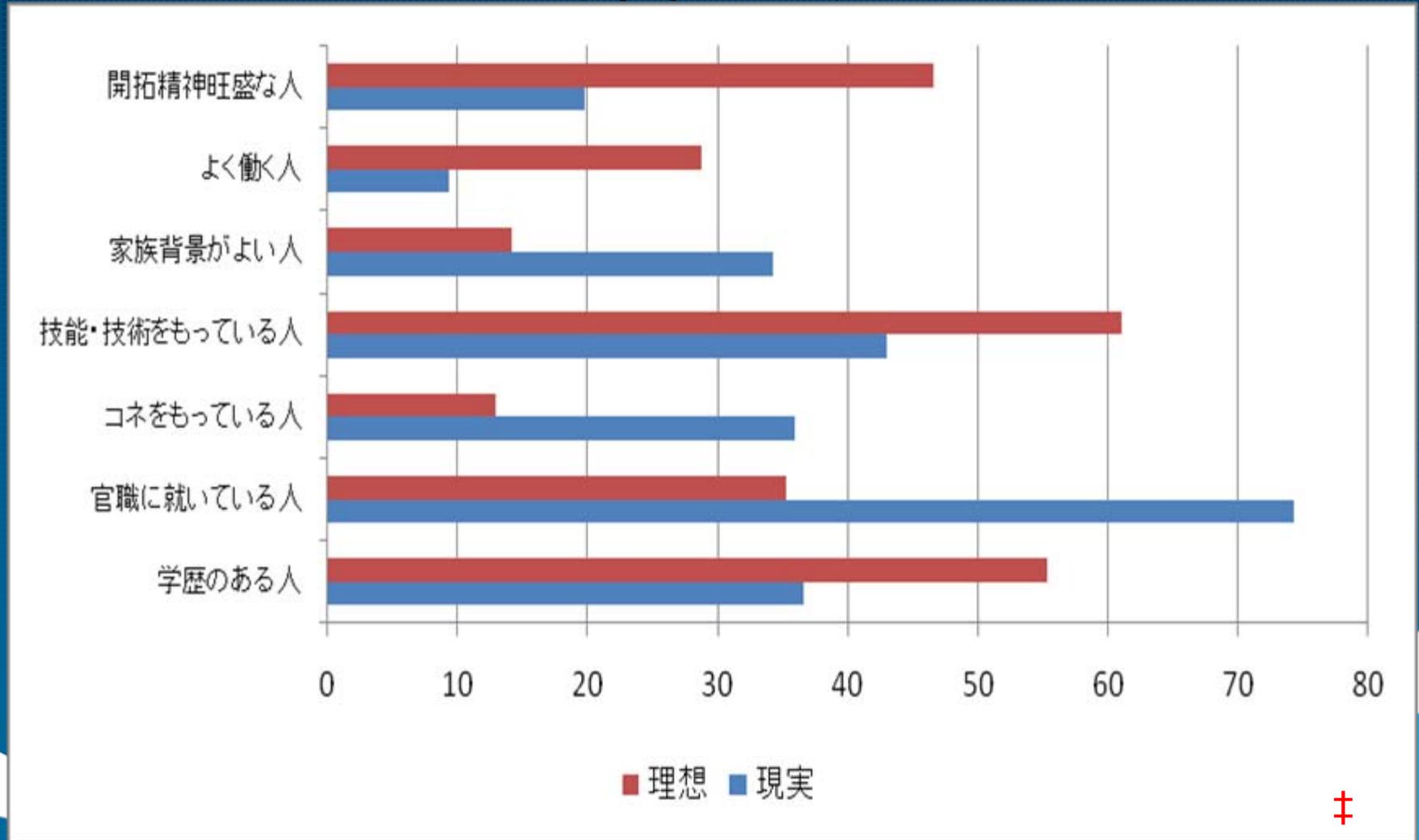
†

数値は、「大変公平だ」と「どちらかといえば公平だ」と回答した者の合計を示したもの。もともとは中国社会科学院が実施したデータ。園田茂人/新保敦子『教育は不平等を克服できるか』岩波書店(2010) p87 図4-11「都市住民の社会的公平に対する意識」

(3) 規範的要因

- *収入格差の肯定と「教育＝自己責任論」の強まり (図13)
- *業績主義的指標としての「学歴」: 理想的な格差、望ましくない格差という視点 (図14)

図14 中国における高収入の理想と現実 (単位: %)



†

5. まとめ

- *なぜ中国では教育による収入格差が是認されるのか：必要となる歴史、制度、規範への視点
- *常識を抉る方法としての「比較」：社会学にとっての自省 (reflection) の重要性
- *意味ある「比較」のために：望まれる理論と実証のバランス

参考文献

- 園田茂人(2004)「日本の若者は中国のハングリー精神に学べ」『中央公論』4月号, 148-155ページ
- 園田茂人編(2005)『東アジアの階層比較』中央大学出版部
- 園田茂人(2008)『不平等国家 中国:自己否定した社会主義のゆくえ』中公新書
- 園田茂人(2009)「格差問題の影が忍び寄る都市中間層の憂鬱」『中央公論』6月号, 46-53ページ
- 園田茂人編(2010)『天津市定点観測調査(1997-2010)』早稲田大学現代中国研究所
- 園田茂人/新保敦子(2010)『教育は不平等を克服できるか』岩波書店